

「便」を用いる中国語原文とその日本語対訳

中国語原文	日本語訳文
插队的故事 (原文)	遙かなる大地 (訳文)
///他在太行山当过几年兵。一路上他总说起他的太行山,说他的太行山比我的黄土高原要壮观得多,美得多。我说也许正相反。他说:“民歌也不比你们那儿的差,”他说,于是扯了脖子唱:“干妹子好来果然是好,”我便跟他一块唱:“走起路来好像水上漂……”	///かつて兵士として太行山に数年間駐屯していたことがあるのだ。旅行中彼はずっと思い出の太行山について話した。彼の太行山は私の黄土高原より遙かに壮大で美しいという。逆だろうと私が言うのと、「民謡だって君らの所よりいい」と言い返し、「いいしあんな娘は美しく」と声を張りあげてうたうので、私も一緒に「歩く姿は軽やかで……」とうたった。
///偷的次数一多,又觉得违于“知识青年到农村去”的教导,便终于发现了响城山上小庙的门窗和门楣。那时没有卖香的,便只好用纸烟代替,指定要“延安牌”的,说那是神神看下的牌子,以致“延安牌”烟脱销了很久。	///盗みの回数が増えると今度は「都会の青年は農村へ」という教訓に背くような気がして、最後に响城山の小さな廟の窓と敷居に目を付けた。その頃は線香を売っていないので、しかたなく紙巻タバコで代用したが、神様の好きな種類は「延安」印と決められていて、そのため「延安」印のタバコの品切れ状態が長いあいだ続いた。
小彬先还不信,见李卓卓乎一本正经,便“刷”地一下把脸色通白。	小彬は最初冗談だと思っていたが、李卓がまじめな顔をしているのを見てさっと顔が青ざめた。
有一本心理学的书中说,少男女在互相吸引之前,会有一段互相憎恨的过程。按我的经验看,相憎绝不在相吸前,保险是在其中,那炽热的相吸一时难于表达,便只好找碴儿打几回架。	さる心理学の本によれば、若い男女は互いに惹かれ合う前に必ず憎み合う段階があるそうだ。私の経験によれば、憎み合うのは惹かれる前では難しく、絶対にその渦中にある時だ。熱い思いをすくにはうまく表現できないので、やむを得ずけんをうつけはけにさせる女の人について(訳文)
关于女人 (原文)	女の人について (訳文)
她很孝,因为没有弟兄,她(便)和她的父亲守在一起,下课后常常看见她扶着老人,出来散步,白发红颜,相映如画。	先生はたいへん親孝行で、ひとりっ子だったので、お父上といっしょに暮らしておられた。放課後はいつも、老いた父親をたすけて散歩される姿が見かけられた。白髪の翁と若い美人。まるで絵のようだった。
他们在七八岁时,便由父母之命定了婚;定婚以后,舅母以为未婚男女应当避嫌,他们的踪迹便疏远了。	ふたりが七、八歳のとき、両親が結婚をきめた。その後は、おばが結婚前の男女は疑われるようなことをしてはならない、と気を配ったので、ふたりのつきあいは疎遠になった。
提到四弟和四弟妇,真使我又心疼,又头痛。这一对孩子给我不少的麻烦,也给我最大的快乐。四弟是我们四个兄弟中最神经质的一个,善怀、多感、急躁、好动。因为他最小,便养得很任性,很娇惯。虽然如此,他对于父母和哥哥的话总是听从的,对我更是无话不说。	四弟とその妻となると、まったく胃が痛くなり、頭痛がする。ふたりは私にやっかいばかりかけるのだが、うちあけていえば、最大の楽しみをもたらしているものだ。+++四弟は四人兄弟の中でもいちばん神経質である。すなおで感じやすく、せつからず、そそかしい。末っ子の常として、わがまま気ままではあるが、親や兄たちのいうことはよく聞き、とくに私にはなんでもうちあけ栄養不足だろと思った私は、肝油とコンデンスミルクを買ってやり、きちんと飲むようにいっつけて、心配しながら引きかえした。
我以为是营养不足,便给他买一点鱼肝油,和罐头牛奶之类,叫他按时服用,自己又很忧虑的回来。	彼女がこころうのは、たいてい私が遊びに夢中になっているときだった。首をなでざらざらした手が、くすぐったくてたまらなかった。微笑んですじになでた眼でじっと見つめられ、私は力強くうんといいた。
///她说这话的时候,我总是在玩着,觉得她粗糙的手,摸在我脖子上,怪解痒的,她一双笑眼看着我,我便满口答允了。	母は三十人からいる大家族を切り盛りしていた。乳母は半分主人になった気分まで、母に協力したのはよいが、そのためほかの使用人に憎まれた。
那时我母亲主持一个大家庭,上下有三十多口,奶娘既以半主自居,又非常的爱护我母亲,便成了一般婢仆所憎恨的人。	母は笑って何もいわなかった。父は笑いを噛み殺し、威儀を正して、+++「おまえの真心はよくわかってる。しかし奥様に話すのにせつからにいうものではない。『おめえさま』とか、『おら』とか、不作法だ+++母といさかいをしているのだから力いっぱい乳母の足をたたいた。振りむいた乳母は、私の手をひいて、その場からさがった。
母亲反而笑了,不说什么。父亲笑着说,正色说:“我们知道你是好心,不过你和太太说话,不必这样着急,‘你’呀‘我’的,没了规矩!”我只以为她是同我母亲拌嘴,便在后面使劲的捶她的腿,她回头看看,一把拉起我来,背着就走。	太陽の光が顔を照らし、お茶のいい香りが漂ってくる。目を覚ますと、窓の外は雲南独特の真っ青な空。あたりはしんと静まり返っている。私はそつと服を着て出ていった。台所をのぞくと、足音をたてないように気づかないかと、Sが朝食の準備をしているところだった、私に気づくと、にっこり笑って、+++「よく眠れましたか。馬に乗り通しでお疲れだったでしょう。だから起こさなかったんだけど。Pは仕事に行きました。子どもは学校。さあ、お粥をいただきますよるか」
阳光射在我的脸上,一阵煎茶香味,侵入鼻腔。我一睁眼,窗外是典型的海蓝的天,门外悄无声息。我轻轻的穿起衣服,走了出来,看见S蹑手蹑脚的在摆着早饭,抬头看见我,便笑说:“睡得好吧?你骑了一天马,一定累了,我们没有叫你。P上班去了,孩子们也都上学了,我等着你一块儿吃粥。”说着忙忙的又到厨房里去了。	二、三編書いたところで、あの人が、原稿収入より支出が多いことに気づいて。原稿料と人を雇う賃金の上昇率は、ほとんど一対一で、仕立て代や靴の値上りはたいへん。原稿料で子どもの服をつくるようになって、夢みたいなこと。小説を手帳書いても、小さな靴一足買えない。はげまなくて、希望もなく、原稿を書くほど悲しくなるばかり。家族が苦情をいうので、女中も断りました。
“写了两篇文章,我的先生最先发现写文章挣钱,是得不偿失!稿费增加和工资增加的速度,几乎是一与百之比,衣工,鞋价,更不必说。靠稿费来添置孩子衣服,固然是梦想,写五千字的小说,来换一双小鞋子,也是不可能。没有了鼓励,没有了希望,而写文章只引起自己伤心,家人责难的时候,我便把女工辞退了。”	こらえきれなくなった彼女は、子どもをかたわらに押しやり、大声を上げて泣きはじめた。+++母親が泣くのを慣れれているのか、子どもはほかんとつ立つていたが、もとの遊びにとどこもどっていった。+++私はどう励ましてよいかわからなかった。この広々とした野外で思いきり泣かせてやるのが、家のなかで日がな一日、淋しくふさがれた胸のうちのを晴らすことになろうとも思っていない、そつとその場を離れた。
///她说着忍不住把孩子推在一边,用衣襟掩着脸大哭了起来。孩子们也许看惯了妈妈的啼哭,呆立了一会,便慢慢走开,仍去玩耍。我呢,不知道怎样劝她,也想她在家整天的凄凉掩抑,在这广阔的野外,让她恣情的一恸,倒也是一种发泄,我也便悄悄的走向一边……	自分の名前が出たのを聞きつけ、門の敷居に腰を下ろしていた老張は立ち上がって、茶色い歯を見せ笑顔になった。
///老张听见说到他,便从门檻上站了起来,露出一口黄牙向我笑。	「ええ。アメリカ人は自分たちが世界をリードしていると思っています。我々もそれを受容れて、OK, OKってわけですよ。これでお分かりでしょう。革命家、共産党員揃いの一家で、僕だけが不肖の徒で……」彼は言葉を止めて倪藻を見やった。倪藻の反応は平静で、笑みを浮かべた表情には何の変化も現れ二行目の歌詞を忘れてラ、ラ、ランと歌う。
“是的。美国人认为他们在领导世界。我们接受了领导,便OK长,OK短起来了。这您就知道了,我们全家都是共产党员、革命者,惟独出了我这么一个不肖之子。”他停了停,看了倪藻一眼。倪藻的反应是平静的,他的脸上的含笑的表情并没有什么变化。	静宜もよく物貰いができる。物心つてから殆ど毎春に一回は患った。十三の時とはわりと細いひどかった。右目蓋の小さな傷痕はよく見ないと分らないが、その時の名残である。
第二句词,她记不清,便唱成“料料”和“吗行子”(犹言什么东西)了。	一遍に三方を塞がれたらどうしよう。
静宜也常常长针眼。记事以来似乎每年春天都要长一次。十三岁那年长得特别厉害。她的右眼脸上有一块小小的疤痕,不仔细打量是看不出来的,便是那次针眼的遗迹。	そんなシーンを演じた後、静珍は酷く恥かしくなる。だからブラブラ歩きと鼻歌を止め、おとなしくベッドに坐ってグズグズとタバコを吸い始める。表情に落ち着きと謙虚な笑みを浮かべながら。
不是一瞬间便(便)可以给你树起三面高墙吗?	真夜中、西北の空に微かな雷鳴が走った。雷同者がえられなかった故かソソソと身を隠す。
经过这么一出(戏)以后,静珍自觉豁然。便不再原地溜达,不再吟唱。她老老实实坐回铺板上,磨磨蹭蹭再次抽起烟来。脸上显出了安详谦逊的微笑。	///それにしても肝油は療養中の自分にとって体力の回復に役立つ、思い直して自分で飲むことにした。
半夜,西北方向的天空响起了几声寂寞的轻雷,雷声没有得到任何应和,便(便)尴尬地消失了。	「あなただって突きつけたじゃありませんか!」+++ママになじられて明らかになんか怒っていたが、鄭板橋の書にちらと視線を走らせただけでギョッと眉間にしわを寄せて堪えていた。
///但后来想到自己正在病中,麦精鱼肝油对于他的病体的复原原有好处,便(便)想留给自己吃也好。	姉の倪藻は倪藻の読書に怖れと反対の態度をみせた。「まあ、こんな小さい時からそんな沢山の本を読んだら、頭が破裂して、脳みそが流れでてしまうわ」とはあんまり酷い言い方なので、弟には突っ掛かれ、ママにも叱られてしまった。
“你说说专门爱指着人!”母亲揭露说。+++父亲显然要发作了,但是他看了一眼郑板桥的书法,便(便)死皱着眉头忍了下来。	笑に下らない内容に、子供たちはシラッとしている。倪君誠自身も気恥ずかしくなって、子供に構わず洋書を取り上げた。暫く目を通していたが頭にはいらないので、母上と姉上に新年のご挨拶をしようと妻を誘った。静宜は驚喜して早速ご都合伺いに参上すると「元日の朝、キョーザを頂く時で宜しかる。今日は遠慮さして貰おかね」との思召し。///
姐姐对倪藻的读书抱恐惧、反对的态度。“你那么小,读这么多书,脑袋要爆炸的,脑浆子会流出来的。”她说得难听,弟弟便(便)和她打起来了。后来,她挨了母亲一顿骂。	客を見送ってから姉妹は先輩の助言をさらに討議し、感服するのだった。でも考えてみると彼女こそ強か者、他の誰よりも用心すべき相手だという結論になった。寝しな静宜はフト思いだして倪藻を叱りつけた。
“谣”的内容颇为无趣。他念得南腔北调。念完,孩子无任何反应,他也觉得尴尬。便(便)不再理孩子,拿起外文书来读,读了一会儿,读不进去,他便(便)找静宜,说是他要给老太太与姐姐拜年行礼。静宜受宠若惊,便(便)去报告。二位说:“等初一吃饺子的时候再说吧,现在不必来了。”///	四十五歳になってから飛び込みの練習を始めた彼は、三メートルの飛び込み台にブルブル震えながら上がってプールを覗き、そのまま五分も眺めていた。彼の後に並んで順番を待っていた子供たちは焦れてはやもした。+++伯父ちゃん早く飛び込めよ、おっかないのかい。+++その年で、腰でも挫いたら事だよ。+++ おや、一人前に呼吸を整えてるぜ、やる気なんだ。
送走客人,却(却)之迎之姐妹继续讨论体会会客人的指导,感到五体投地。但又都说,此人太精太坏,不是好东西,今后倒不用防别人,头一个得先防着她!临睡觉时静宜忽然又想起来,便(便)说了倪藻一顿。	伯母は眠りこけて三等の硬い座席から何度も床へ滑り落ち、一度は床に寝転んだ。
四十五岁以后,他开始学跳水。他颤颤巍巍地走到三米高的跳台上,俯视游泳池的水面,一站就是五分钟。在他身后排队等候跳水的顽皮少年等得不耐烦了便(便)冷嘲热讽起来。快呀,别害怕呀!您老这是何苦,要是(要是)了腰可不是闹玩的。哟,这位老爷子还那儿运气呢!	
倪藻因到了极点,便(便)横穿座位躺到了硬座下面的地板上。	

中国語原文	日本語訳文
倪藻又累又乏又烦，便与孩子一起睡下。大约睡了一个小时，倪藻忽然醒了，此事不好，莫非姨母是昏迷了？睡觉能睡这么长吗？可别出了事。	寝息は平均しているのに、疲れきった倪藻は子供と一緒にグーグー寝込んでしまった。一時間ほど眠ってフト目が覚め、伯母の様子が気になった。こんなに長時間眠るとは、もしや昏睡状態では？いかん。
////我陪他游了十分钟以后我终于挺不住了，便抛开他独自往回游。	////さらに十分ほど付き合っていたが力尽き、彼を一人おいて泳ぎ帰った。
检索条件 = 候補語指定：前単語(便)	
高粱(原文)	赤い高粱(訳文)
////父亲身上暖洋洋的，被露水打湿的衣服彻底干了。又趴了一会，父亲感到有一粒石子硌得胸痛，便起身坐起，头和胸高出堤面。	////身体はほかほかと暖かい。露に濡れた服はもうすっかり乾いていた。まだしばらく伏せているうちに、小さな石の角が当たって胸が痛くなった。起きあがると、頭と胸が土手の上に出た。
父亲闲得发闷，便转到路西边高粱地里，去看哑巴他们在干什么。	退屈なので、父は道の西側の高梁畑へ唾巴たちの様子を見に行った。
高粱秸子轻轻绊他一下，他便倒下。	高粱の茎にかかるく足をとられて、かれは倒れた。
家(原文)	家(訳文)
“你看，三弟又在发疯了！”房里，觉民正站在写字台旁边，跟坐在写字台前藤椅上的琴谈话，听见觉慧的声音，便抬头望了他一眼，然后笑着对琴说。	「ごらん、三弟がまた気が狂った」部屋の中では覚民が文机のかたわらに立って、前の藤椅子にかけている琴と話しているところだったが、覚慧の声をきいて顔を上げて笑いながら琴にそういった。
琴本来有重要的话要对母亲说，可是她看见母亲闭上眼睛，知道今晚没有说话的机会，便站起来，想唤醒母亲上床去睡，免得受凉。她刚刚站起，张太太就睁开了眼睛，望着她说：	琴は大事な話を母にしようかと思っていたのだが、母のそうした様子を見て、今夜は話す機会がないと知り、立ち上って母を呼び起し、風邪を引かないようにペッドへ寝かせようと思ったが、彼女が立ち上ると、張太太はすぐ眼を開けて彼女の方を向いた。
“剑云，你近来还在王家教书吗？怎么好多天不看见你来？身体还好吧？”觉新算好了账，忽然注意到剑云有一点局促不安的样子，便关心地问道。	「劍雲、まだ王さんとこの家庭教師をやっているの？しばらく見えなかったね、からだの具合はもういいの？」覚新は帳簿の計算を終えて、ふと劍雲の小さくなっていく様子に気がついてそうたずねた。
三个人的眼光都集中在剑云的脸上。剑云忽然觉察出来了，便埋下了头，但是他马上又把头抬起来，他的一双阴险的眼睛畏怯地看琴的脸。	三人の眼が劍雲の顔へ集中した。劍雲はそれを察して急に眼をふせたが、またすぐ頭をもたげて、憂鬱な眼で臆病らしく琴の顔を見た。
琴忽然想起一件事，便正色地对觉民说：“我的事情已经决定了。我现在只有努力预备功课。我想跟你补习英文，你肯不肯？”	琴はとつぜん何かを思い出したように、真顔になって覚民にいった。「わたしのこと、決心したのよ。一生けんめい勉強するわ。あなたに英語教えていただくこと思うんだけど、いかが？」
他应了一声，便转身走到祖父的面前。	彼は「はい」と答えて祖父の前へもどって来た。
“三少爷，你看你把你的爷爷气成这个样子。请你少说几句，好让他将息一会儿！”陈姨太太板起脸对觉慧说。觉慧知道她的话里有刺，但是在祖父面前，他不好发作，便掉开脸不说话，暗暗地用力咬自己的嘴唇皮。	「三少爺、爺爺がこんなにお苦しそうなおわりでしよう。爺爺のお氣のしずまるまでだまっておきなさい」陳姨太は顔色を変えて覚慧にいった。声は干からずでいて、いかにもわざとらしい態度をみせていやらしく、顔がいつそう長く見えた。覚慧は彼女の言葉に冷たい矢が含まれているのを知ったが、咳きいている祖父の前で怒り出すのもよくないと思ひ、仕方なく彼女にいわれるままにうなだれて口をきかず、そっと唇をかんでいた。
然而陈姨太太进来了。那张颧骨高、嘴唇薄，眉毛漆黑的脸在他的眼前晃了一下。她带进来一股刺鼻的香风。接着他的大哥也进来了。他们弟兄交换了一瞥不愉快的眼光。觉新马上知道觉慧处在什么样的境地里，便平静地走到祖父面前去。	陳姨太ははいつて来た。その痩せて長い、厚化粧の顔が、彼の目の前に浮き上って狡猾な微笑をみせた。つづいて大哥の平静な顔が現われた。彼ら兄弟は一瞬不愉快な視線を交した。覚新は覚慧がどんな立場に立っているのかを直感して、静かに祖父の前に立った。
觉慧并没有看哥哥的脸，但是他觉得哥哥那只抓住他的右臂的手在颤抖，连声音也跟寻常不同，他知道哥哥激动得厉害，便用左手把哥哥的手背轻轻拍了两下，微笑地说：“你应当勇敢点。我希望你成功。……我爱琴姐，好像她是我的亲姐姐一样。我更愿意她做我的嫂嫂。……”	覚慧は兄の顔は見なかったが、右腕をつかんでいる兄の手がふるえているし、その声も普通でないのを知った。兄が非常に興奮しているのわかったので、兄の手を甲を普通たきながら突いていった。「進めたいですわ。僕は兄さんと争おうなんて思やあしない。僕も兄さんの成功を祈りますよ……僕が琴姐を愛するのには、姉に対するような愛情ですよ」
但是这痛快也只是暂时的，等到他抛开书走出房间的时候，他又看见他所不愿意看见的一切。他立刻感到寂寞，便又无聊地走回房里。他的时间就是这样地浪费了的。	しかしこの痛快さもほんのしばしの間である。本を抛り出して部屋から出て行く、彼はまた見たくないものをいろいろ見せられた。彼はさびしくなると、つまらなそうに部屋にもどって来る。時間がこうして空しく過ぎて行くのだった。
一股热气在他的身体内直往上冲，他激动得连手也颤抖起来，他不能够再念下去，便把书关上，端起茶碗大大地喝了儿口。	彼は全身がかっとなってきて、昂奮のために手がふるえ、それ以上読んでいられない。彼は茶を閉じると、茶碗をとってぶぶと茶をのんだ。
“三弟，你刚才念的话很不错。我不是奢侈家，不是命运和自然的爱子。我只是一个劳动者。我穿着自己的围裙，在自己的黑暗的工厂里，做自己的工作。”觉新渐渐地安静下来，他望着觉慧凄凄地笑了笑，接着又说：“然而我却是一个没有自己的幸福的劳动者，我——”他刚说了一个“我”字，忽然听见窗外的咳嗽声，便现出惊惶的神情，改变了语调低声对觉慧说：“爷爷来了，怎么办？”	「おまえがいま読んだ文章に間違いはない、俺は贅沢のできる身分ではない、運命と自然の愛児でもない。ただ一個の労働者だ。自分の前かけをしても、おのれの暗い工場の中で、自分の仕事をしている」覚新はようやく平静にもどっていたが、相変わらず声は悲憤だった。「しかし俺はきわめて不幸な一人の労働者で、俺は一」と彼がいきかけたとき、とつぜん窓の外に咳げらいが聞こえた。彼はびっくりして語調を変え、低い声で覚慧にいった。「爺爺が来た、どうしよう？」
////偶尔有一两个人谈话，都是短短的两三句。略带酒意的老太爷觉察到这种情形，便说：“你们不要这样拘束，大家有说有笑才好。你们他们那一桌多热闹。我们这一桌清静静的，都是自家人，不要拘束啊。”他举起酒杯，把杯里的余酒喝完，又说：“你看，我今晚这样高兴！”他又含笑对克定说：“你年轻，团年多吃两杯，也不要紧。”他吩咐李贵和高忠：“你们多给姑太太、老令、太太们斟酒嘛！”老太爷的这种不寻常的高兴给这张桌子上带来一点生气，于是克安和克定、王氏和陈姨太太先后划起拳来，大口地喝着酒，嬉也动得动了。	////たまに二人話としても短い言葉である。やや酔いのまわってきただけの老太郎は、この様子を察して「おまえたちそんなに固くならなくていい。少しくつろぎなさい。大いに飲談せんけりやあいかな。あつちのテーブルをみなさい。にぎやかじや。こちちは静かすぎる。みんな内輪ばかりじゃや、遠慮はいらん」彼はそういながら杯をとり、残った酒を飲みほす。「わしは今夜はとてども愉快じや」老太郎がご機嫌なので、この卓も少し活気を帯びてきて、飲談の声が高まり、箸がさかんに動いた。
年纪较小的觉群和觉世因为挟菜不方便，便跪在椅子上，放下筷子，换了调羹来使用。	小さい覚群と常世は料理がはさめないで、椅子の上に乗ってしまつて箸の代りにちりれんげを使っている。
他刚转过身子，便看见觉新不在了这里，同时还听见楼梯在响。他慢慢地走到楼梯口，踏着楼梯走下去。	ふり返ると覚新はもうそこには見えず、梯子段をおりる音が聞こえた。覚慧も静かに梯子段のところへいつておりかけた。
他们走进里面，张升来招呼了他们。他们走到张太太的窗下先唤了一声“姑妈”，张太太在里面答应了。他们走进堂屋的时候，张太太正从房里迎出来。他们说声“给姑妈辞岁”，就跪下去行礼。张太太虽然口里连声说“不必”，但已经来不及阻止他们了，便带笑地还了礼。	彼らが東側の中庭にはいると、張升が出て迎える。彼らは張太太の窓の下へ行って「姑媽」と呼ぶと、家の中で返事があつた。彼らが堂屋に入ると、張太太がちょうど部屋から出て来た。彼らはひざまずいて拝礼する。張太太はいいのよ」といつてとめたが、彼らがもうひざまずいてしまつているので、答礼した。
他们坐了一会儿。琴邀请他们到她的房里去，他们便跟着琴去了。	彼らはしばらく堂屋にいたが、琴が自分の部屋へ来るようにいうので、張太太に失礼して、琴について彼女の部屋へ行つた。
那个人止了步，也抬起头掉过眼光来看，见是他们，便走过来，惊喜地说：“是你们？”	その男も立ちどまつてふり返り、彼らを見るときうれしそうに近づいて来た。「君たちだったのか」
觉慧走过觉新的窗下听见屋里的麻将牌声，便回转身从过道走进觉新的房间，看瑞珏们打牌，过了一会儿他才回到自己的屋里去。	覚慧が覚新の部屋の窓下を通ると麻雀牌の音がするので、渡廊からその部屋へはいつていつてみると、瑞珏達がやっている。しばらくそこにいたが、やがて自分の部屋へ帰つていつた。
这句话来得很突然，便引起了觉慧的注意。	あまりとつぜんだったので、その言葉が覚慧の注意をひいた。
“好，你嘴硬！你看罢，将来究竟挑到哪一个。不是我就是你，你不一定就跑得掉，”婉儿急得没有办法，便赌气地冷笑道。	「いいわよ、口がへららないんだから、見てらつちやい。将来どつちが選ばれたか、選ばれたらもう逃げられつこないわよ。わかっているでしよ」婉兒はいらいらしてもの仕方がないとみてそういつて冷笑した。
这时候在房里，鸣凤还跪在椅子上，她没有听见什么声音，以为觉慧已经去了，便偷偷地把纸帘卷起半幅。她看见他还站在那里，她很感动，连忙把纸帘放下，用手揉了揉自己的两只眼睛。	このとき部屋の中では鳴鳳がまだ椅子の上にひざまずいていた。彼女にはもう何も聞かえず、覚慧も去つたと思つて、そつと窓かけを掲げてみた。そして彼がまだそこに立っているのを見出して胸がつまり、思はず顔をしっかりとガラスにすりつけると、失神したように彼の後姿を見つめていた。
天色渐渐地发白，到了敬神的时候，觉慧便撤下剑云到堂屋里去了。老太爷因为觉群在堂屋里说了不吉利的话，便在一张红纸条上写着“童言无忌、大吉大利”，拿出来贴在堂屋的门柱上。觉慧看见，忍不住在心里暗笑。	空がようやく白んできて、拜神の時間が来る。覚慧は劍雲をうながして堂屋にはいつた。このとき老太郎が、覚群が堂屋で何か縁起の悪いことをいつたとかで「童言无忌大吉大利」と書いた紅紙を、門柱に貼り出した。覚慧はそれをみてひそかな笑いを禁しえなかつた。
////一年里只有这一刻他们才有在街上抛头露面的机会，所以大家带着好奇的眼光，把朦胧中的静僻的街道饱看了一会。大家似乎还有点留恋不舍，但是同时又害怕撞见别的男人，便匆匆地走进公馆去。爆竹声住了，笑语歇了，街道又回到短时间的静寂里。	////なげなら一年の中でこのいつときだけ、彼女たちは街中に頭も顔も丸出して出られるのだ。だからみな好奇の眼をみはり、ひっそりと朝霧にけむつて横たわつて静僻の街道を飽かず眺めて、何から何まで珍しく、おもしろい。そして未練げに、しかし同時に他の男に出逢うのをおそれて、あわてた足どりで逃げ帰るのである。爆竹の音はやみ、談笑の声もやんで街はまたしばしの静寂にもどる。
这一天的重要的时光过去了。在这个公馆里，大部分的人因为一夜没有休息，支持不住，便早早地睡了。	この一日の重要な時間がすぎると、この邸もまた静寂に返つてゆく。大部分の人が徹夜したので、遅らなくなつて早々に床にはいる。
瑞珏、淑英和琴都是做菜的能手，便由她们轮流做菜，其余的人在旁边帮忙，做点杂事。	瑞珏、淑英、琴はいずれも劣らぬ料理の名人だった。彼女たちは代り番に料理して、他の人々はそばで雑用を手伝つた。
九点钟敲了，还没有动静。大家都觉得乏味。剑云因为第二天要到王家去教书，惦记着功课，没有兴致，便告辞走了。	////九時を打つたが音沙汰がない。みな少々心細くなつてきた。劍雲は明日は王家へ家庭教師に行かねばならず、その勉強も氣になつて興が乗らず、もう待ちきれなくなつて、早々にいと間を告げて帰つていつた。

中国語原文	日本語訳文
正在这个时候，高忠走了进来。克定看见这个年轻的仆人，想起了方才的长久等待的痛苦，便破口骂道：“你这个混账东西！叫你出去打听，你就耽搁了这么久。你说你跑到哪儿去要去了！”	ちょうどこのとき高忠がはいってきた。克定はこの若い下僕を見ると、今まで長く待たされた苦痛がよみがえってきた。「この大馬鹿者・ききにやればこんなにひまどって、どこをほつつき歩いてんだ」
觉民不明白他的意思，便掉过头看他一眼，不以为然地说：“这种低级趣味的把戏，怎么能使人感动？”	覚民は彼のいう意味を解しかねて、ちょっと彼の方をみてが、じきに傲慢な視線が、その金縁眼鏡を通して覚慧の顔にそがれたのである。「こういう低級な趣味の見世物は、人に感動なんか与えないよ」
他们一行八个人鱼贯地进了花园，沿着那一带回廊走去。淑贞最胆小，便拉了鸣凤靠着她走。	一行八人、列につながって花園にはいって、あの長い廻廊に沿って歩いていった。淑貞がいちばん臆病で、鳴鳳にくっついて歩いている。
“大少爷，”鸣凤笑着在船头叫起来。众人仰起头望上面，看见觉新把头伸出来注意地听他们谈话，便都不作声了。	「大少爷」鳴鳳が船でそう叫ぶので、みなが上を見ると、覚新がだまって首を出して、彼らの話をきいていた。
众人都不知道这是什么缘故，还以为淑贞舍不得分散，便带笑地劝慰她。她只顾埋着头哭，而且哭得更厉害。众人看见劝慰无效，便也不劝她了。觉民甚至说：“看你把琴姐的衣服弄脏了，”也不能够使她抬起头来。淑贞于是拿起笛子横在嘴边吹起《悲秋》的调子。笛声好像在泣诉一段悲哀的往事，声音在水面上荡漾，落下后又浮起来，散开了又凝聚起来。	みなはそのわけを知らずに、淑貞がまだ解散してゆくのを悲しかっているのだから、笑って慰めたが、彼女はただうつ伏していっそうひどく泣くばかりだった。で、みなさじを投げてしまった。「琴姐の服がよごれるよ」覚民がそういったが、彼女は頭も上げなかった。淑貞がそのとき笛を口にあて「悲秋」の曲を吹きはじめた。自分の音は悲しい物語を泣いて訴えてもするように、水に揺られ、水をくぐって、あるいは散じ、あるいはあつまとといった様子、みな悲愴な気持ちにさせられた。「もう大丈夫かしら」周氏は彼らの落ちついた顔つきを見て、いくらかほっとしたように感じてそうたずねた。
“现在不要紧了么？”周氏看见他们的平静的脸，更放心了，便问道。	この消息はもちろん祖父たちに少なからぬ安心を与えたが、張太太はいささか心配だった。自分の家がけっきょくどうなっているかわからないからである。しかしこの心配も束の間であった。いい手があったのでそんなことは忘れてしまったのである。
这些消息自然给祖父们带来不少的安慰。但是张太太还有点不放心，因为她不知道自己家里究竟怎样了。不过这只是短时间的焦虑，因为不久她起了一副好牌，便又把那些事忘掉了。	覚新は長輩たちとしばらく話していたが、みな麻雀に夢中なので、一人傍に立っているのも味気なくなって出ていった。
觉新跟长辈们谈了几句话，看见大家都在注意地打牌，便走了出去。	張太太は家に帰ることはできないので、高家にとどまって覚新一家といっしょにいた。
张太太不能够回家，便也留在高家陪伴觉新一房人，	覚慧は部屋にいたたまれず外へ出ると、ぎょっとして立ちすくんだ。東の方の空の一角にうす赤い光が立ちのぼって、いよいよ拡がってゆく。火の粉がばらばら焔の中に乱れ飛んでいた。彼は思わず「火事だ」と叫んで、全身の血が凍るかと思われ、呆然と空を仰いで一步も動けなかった。身の毛のよだつ思いで、そのときの気持ちを説明する適当な言葉を探し出せないほどだった。
觉慧在房里实在坐不下去，便走出来。他吃惊地看见天空中东边的一角直往上冒着淡红色火光，而且逐渐在扩大，火星不时在红光里飞。他不觉叫了一声：“起火了！”他觉得全身的血都凝固了。	「おまえ、おまえがここにいて、どうするっていうんだ」覚新はびっくりして瑞■を軽くおしやり、悲しそうな声で「おまえがここにいたって仕様がなんだよ。はやく行け、遅くなるといけない」彼はいら立って足をばたばたさせた。
“你，你留在这儿陪我？你这是什么意思？”觉新吃惊地说，便把瑞珣轻轻地推开，然后悲声说：“你留在这儿有什么好处？你快去，免得太晏了。”他说着又焦急地顿脚。	///こうなると覚新はもう施す術もなく、瑞■を拜むようにして「海児のことを考えて、どうか行ってくれ。いっしょに死んだって何もいいことはない、その上何も死ぬってきまってるいやあし、やつらが来たら、俺に方法があるんだ。もしもやつらが、おまえがここに居るのを見たら、いいことはないじゃないか。おまえだって、身の潔白を望むだろうが」彼はその先をつづけていへなかった。
这一来把觉新急得没有办法，他便对瑞珣接连作了几个揖恳求地说：“请你看在海儿的面上，你跟我一起死有什么好处？我未必就会死。他们来，我有办法对付。倘若他们看见你，又怎么样呢？你也应该爱惜你自己的清白身子，况且你肚子里还有……”他不能够再说下去了。	またしばらく恐怖の時が過ぎて、お互いに顔を見合せても、いうべき言葉も出て来なかった。やがて周氏が覚慧の疲れたような様子を見て、休むようにいつ
又过了一些恐怖的时刻。后来周氏看见觉慧现出疲倦的样子，便叫他去睡。	高忠は外からあわててはいつて来て、軍隊が駐屯したいと申し出て来たと報告する。女たちはまるで今にも軍隊が堂屋へはいって来るとでもいうふう、さっそく部屋へ逃げこんでしまった。このとき老太爺はまだ帰っていなかったの、克明が交渉にあたり、彼の兄弟や甥たちがうしろについていった。
高忠从外面进来，带着惊惶的脸色报告说，军队要来驻扎。于是女眷们都跑到房里躲起来，好像军队就要开进堂屋里来似的。老太爷还没有回家，便由克明出去交涉。他的兄弟和侄儿们都跟在后面。	彼らがそこで何を話しているか二人にはすぐわかったの、ゆっくり通り過ぎて行った。
他们知道这些人那里说些什么，便也慢慢地走过去，	彼はちょうど梅の対面に坐った。彼ら二人は口数も少く、ただたまま憂鬱な一べつを交わすにすぎなかったが、覚新の心は少しも牌の上にはなく、時折ましがった牌を打つては瑞■に見つけられ、背後から彼女が笑って指示してやる。
///他恰恰坐在梅的对面，他们很少说话，只是偶尔交换一瞥忧郁的眼光。觉新的心完全不在牌上，他时常发错牌，瑞珣看出来，便站在后面给他指点。	梅は淑華の部屋へ帰った（この二三目彼女は淑華の部屋で寝ていた）。部屋にはささいい誰もいなかったの、彼女はベッドに横たわって、来し方行く末のことなどこまごまと考えながら、
梅回到淑华的房里（这几天她就在淑华的房里睡），房里正好没有人，她便躺在床上把前前后后的事情仔细地想了一番。	///家には一人だつてわたくしを理解してくれる人はありません。母は自分のことばかり考えていて、わたくしはわかってくれないのです。弟はまだ小さいし、誰がわたくしの苦しみなど知るものですか……ある時は胸の痛みに堪えられず、一人で部屋に逃げこんで泣きました。
///在我家里没有一个人了解我。我母亲只顾想她自己的事。弟弟又小。我的苦楚谁知道？……有时我心里实在难受，便一个人躲在房里哭，	彼は元來勉強の余暇を、すべてこの週報のために費そうと思ったが、しかし同時に祖父の干渉をおそれて、彼と週報との関係をひたかくしに隠さざるをえなかった。
他本来很想把课余时间完全花在周报上面，然而他又害怕会引起祖父的干涉或者还会给大哥添一些麻烦，便只好隐瞒着他跟周报的关系。	///琴がその間に割りこんでゆくと、みんなの視線が■如の頭上に集まっているので、ふとその方へ眼をやると、びっくりした。■如の頭は今日ほどくに美しい。
///琴插身进去，她看见众人的眼光都集中在倩如的头上，便也把眼光往那里送去。她惊奇地发现倩如的头今天特别好看。	///彼女は過去のよい時代を追憶し、そのよい時代がもう再びめぐって来ないのを悲しんだ。そしてふと琴に眼を向けたが、琴が何かいいたそうにもじもじしている様子を見て「琴児、どうかしたのかい」
///她在追想过去了的黄金时代。忽然她一转眼，看见琴的带着祈求的、欲语又止的神情，便惊讶地问道：“琴儿，你有什么事情？”	彼女の希望はまったく消滅した。彼女はもう自分を支えて行くことができず、顔をおおって泣きはじめた。
她的希望完全破灭了。她不能够支持下去，便捧着脸哭起来。	///彼女はきよきよと彼をたずねた。しかし彼女の眼前には白紗のカーテンが静かに下って、部屋の内部にあるいっさいのものをさえぎり、ほかのものは何も見えなかった。彼女は窓に近づいて背伸びをして内部をのそこうとしたが、窓の方がやや高くしてどかなかつた。彼女は二度ばかり試してみたがだめなので、がっかりして二三歩返ろうとして
///她注意地用眼光去找寻他，然而在她面前白纱窗帷静静地遮住了房里的一切。她看不见别的什么。她走近窗户想伸起头去望里面，但是窗台较高，她的头达不到。她试了两次，都没有用，便绝望地退了步。	鳴鳳は彼が頭を上げないのを見て、デスクのそばへ歩み寄り、おすおすと、しかしやさしい声で「三少爺」と呼んだ。
鸣凤看见他不抬头，便走到桌子旁边胆怯地但也温柔地叫了一声：“三少爷。”	///「あたしの存在なんて、そんなに小さいものだったのかしら」こうした考えがとつぜん彼女の胸を打った。彼女の心には訴えるすべもない悲しみが溢れてきた。涙がまたこみ上げて彼女の眼がかすんだ。もう自分を支える力がなくなつて、彼女はべったりと地面へ坐ってしまった。
///“我的生存就是这样地孤寂吗？”她想着，她的心里充满着无处倾诉的哀怨。泪珠又一次迷糊了她的眼睛。她觉得自己没有力量支持了，便坐下去，坐在地上。	